

地域おこし協力隊とは？

人口減少や高齢化等が進む地域に移住して、地域ブランドや地場産品の開発・販売・PR等の地域おこし支援や、農林水産業への従事、住民支援などの「地域協力活動」を行いながら、その地域への定住・定着を図る取り組みです。隊員を任命するのは各地方自治体で任期は概ね1年以上、3年以内です。

結婚を機に奥様の故郷・福島へ。空家バンクの運営と経験を生かして移住をサポート

須賀川市の地域おこし協力隊に採用され、「須賀川市空家バンク」の運営業務を担当している宇佐美さん。

須賀川市の地域おこし協力隊に採用され、「須賀川市空家バンク」の運営業務を担当している宇佐美さん。埼玉県出身ですが、もともと地域活性化に興味があり、栃木県下野市で地域おこし協力隊として活動を始めた。その後、2022年3月、本県棚倉出身の奥様との結婚を機に福島県へ移住。「須賀川市」の花火大会やおしゃれなカフェのことなどが、中央に位置し、交通アクセスも良かったので、須賀川市で暮らすことにしました。

現在は、須賀川市役所近くにある都市再生推進法人株テラソチマを拠点に、3年目になる「空家バンク」の運営業務を担当し、

地域貢献したい

私たちがしました！

結婚



須賀川市 宇佐美 慈さん

埼玉県出身

空家を活用して移住を促進！



積極的な行動で移住生活を楽しめ、県内観光も満喫！ 須賀川は魅力たっぷり

移住支援

結婚

ラグビー元日本代表現役を引退し、第二の人生を始動。奥様の故郷・郡山で新生活をスタート

198cmの屈強な体と爽やかな笑顔が印象的な宇佐美さんはラグビー元日本代表です。愛媛県出身で立命館大学3年時に初めて日本代表に招集された名選手は2021年に現役を引退。第二の人生を送る場所として2022年6月に奥様の故郷である郡山市に移住しました。「東京で暮らしていた子ども（4歳と2歳の男の子）が生まれ、家族と一緒に過ごす時間を第一に考え、子育てをするなら妻の両親の近くでいたいと思いを込めて、郡山市が子育て支援に力を入れていることも移住を決意させる理由の一つだったそう。昨夏、市内に家を建て新生活が開始しました。

郡山市 宇佐美 和彦さん

愛媛県出身

ラグビーの楽しさを伝えたい

郡山市役所 会計年度任用職員



郡山市の任期付き職員として採用された宇佐美さんは、宝来郡山総合体育館で来館者の受付やポーツの大会の準備、利用者のための用具の組み立てなどを担当しています。「職場の皆さんはとても優しく、素敵な同僚に囲まれて楽しく業務を行っています。最初は方言がわからなかったのですが徐々に慣れてきました」と笑います。週に4日の勤務なので家族との時間が増えたことも大きな変化。子どもの成長を見守りながら充実した日々を送っています。「愛媛は暖かかったので郡山の寒さに驚きました。この冬、初めてスタッドレスタイヤを購入しました。

自然が豊かな環境で子育てを楽しめ、福島県においてラグビーの普及と、指導者を目指したい

「福島県はラグビー部が少なく、競技人口も多くありませんが、試合などを見る機会が多いため期待できる学生たちが多くいます。しっかりと技術が身に付けば全国でも活躍できると思います。高校の保健体育の免許を持つ宇佐美さんは、自身の経験や実績を生かして指導者を志しています。昨年は市内の小中学校で開催されたラグビー教室にも参加。子どもたちが純粋に楽しむ姿を見てうれしかったと言います。暮らしやすい郡山は家族みんなのお気に入り。「子育てに良い環境で子どもたちのひびと成長しているのが幸せです。山や湖など自然に囲まれ、一年中レジャーを楽しめるのも魅力です」。今後は、ラグビーに触れたことがない子どもたちも気軽に参加できるイベントを開催したいと言います。「郡山市や福島県への普及に努めていきます」と新たな決意を胸に第二の人生を力強く歩んでいます。

仕事・Uターン

だから移住

田舎暮らし

猪苗代町地域おこし協力隊

猪苗代町 加藤 律樹さん

埼玉県出身



旅を通して地域の魅力発信

旅行業

同じ目標を持つ仲間と地域を盛り上げたい！

魅力を発掘して新しい旅を提案

埼玉県出身の加藤さんは大学卒業後の4年間、真摯様のリゾートホテルに勤務。退職後は一度地元に戻りましたが、騎梯高原エリアの美しい自然と同世代で活躍する友人に感化されて念発起。2022年5月に猪苗代地域おこし協力隊に就任しました。「猪苗代、騎梯高原は観光地としての魅力があふれ、若い世代もチャレンジできる環境です。旅行業に興味を持っていて思い切ったチャレンジ活動のほかに、地域限定旅行業「トリップ」を設立。猪苗代湖の観光遊覧船「かめり」のサンセットクルーズやや郡山市湖南町のブドウ畑ツアーを企画し、新しい視点での楽しい旅を提案しています。

「移住して良かったことは協力隊の活動を通して様々な方と関わることができたこと。地域を盛り上げた、という共通の目標のもと一緒に活動できる仲間がたくさんいるので心強いです。現在も移住・定住推進業務に携わりながら新たな旅の企画を提案し、猪苗代町の魅力を発信しています。また、アウトドア好きの加藤さんは、キャンプ、ツーリング、登山、スノーボードなど趣味の時間も満喫しているそう、「四季によって騎梯山の表情が変わるのを楽しんでいます。騎梯高原エリアの生活は5年目になりましたが、いつ見ても感動します。加藤さんならではの斬新な旅に注目してください。

田村市地域おこし協力隊

田村市 岡寄 大治郎さん

神奈川県出身



熱い想いで“ものづくり”を

林業支援

初めて地元を出て新しい環境へ。林業の魅力を伝えていきたい

大学の工学部に進学し、卒業後は地元の神奈川県自動車設計関係に就職した岡寄さん。「働く中で漠然と違和感を感じ始め、地方に移住したい、という思いが強くなりました。様々な地域の協力隊を検討し、その中で田村市を選んだのは担当者の人柄と暮らしやすさです。2022年4月より移住定住促進業務に携わり、林業従事者の獲得を目指して活動しています。「田村市は木材資源が豊富ですが林業を始めたいとは思っていません。林業は単体ではありませんが、林業体験などを通して魅力を伝えたいです。



誰もが自由に楽しめるものづくりを田村市で

子どもの頃から工作が好きだった岡寄さんは地域おこし協力隊の活動をする中で、新たな目標ができました。「林業の魅力を伝えるため、田村市でしかできないものづくりをしたいと思うようになりました。誰もが気軽に体験できる工房兼研究所を作りたくて」と協力隊終了後の目標も語ってくれました。趣味は車とバイク、休日は県内を愛車でツーリングして楽しんでいるそう。「自然が豊かで空気がきれい。美事に帰省して戻ってくる余計に感じます。ここでは自分らしく生活できます」と満足感に浸る岡寄さん。新たな「ものづくり」の拠点が期待されます。

大玉村地域おこし協力隊

大玉村 小川 晴喜さん

東京都出身



文化活動発信

自然とともに暮らしたい

五感で感じる大玉村観光のテーマにも共感

美しい安達太良山を望む住んで移住生活を送る小川さん。大学院卒業を機に「自然豊かな場所暮らしたい」と思い、大玉村へ。大玉村を選んだのは、大玉村の地域おこし協力隊OBとなりがあつたから。「家庭菜園をやりたいと思っていて農業が盛んなところも魅力でした。移住に対してはそんなに不安もなく、何ができるかなというワクワクした気持ちが大玉村に引き寄せられました。2021年8月に協力隊に就任してからはSNSを活用して大玉村の情報を発信。また、フラダンスや時論などの村内の文化団体の活動を動画で撮影して発信しています。「撮影時も皆さんが盛り上がりつつ楽しかったです。

念願だった家庭菜園もライフワークになった小川さん。シェア畑を借りて地域の皆さんと一緒に楽しく作物を育てています。畑を使ったイベントなども実施し、水やりなどの管理も担当していたのですが、協力隊の活動を通して村内外の多の方と話ができることと新しい発見も多いそう。「大玉村のきれいな田園風景が大好きで、村の観光のテーマ「五感で感じる」感行にも共感しています。温かい人に囲まれて自然と共生しながら暮らせるのが幸せです。大玉村の美しい風景を後世に残したいと、小川さんは奔走しています。



田舎暮らし